

◎旧朝香宮邸の歴史を訪ねて

連載◆第3回/朝香宮家の人々(前編)

Residence of Prince Asaka 1933—



ご装束姿の朝香宮同妃両殿下(昭和初期)

朝香宮家を創立された鳩彦殿下は、明治20年(1887年)10月2日、久邇宮朝彦親王くにおみやあさひこの第8王子としてご誕生されました。鳩彦殿下の父君である朝彦親王は伏見宮家のご出身で、かつては青蓮院宮、中川宮などと称されて、幕末の政局に大きな影響力を持たれた宮様でした。また朝彦親王はお子様が多いことでも知られ、鳩彦殿下のご兄弟には梨本宮守正王もりまさや、戦後の混乱期に総理大臣を務められた東久邇宮稔彦王ひがしくにのみやなるひこがいらっしゃいます。昨年崩御された皇太后陛下(香淳皇后)もこの久邇宮家のご出身で、鳩彦殿下は叔父にあたります。

明治39年(1906年)3月、鳩彦殿下は明治天皇の特旨によって朝香宮の称号を賜り、一家を創立されました。朝香宮という称号は、父君の朝彦親王が維新後伊勢神宮の祭主をお務めであった縁で、この地方にある朝香山からお採りになったと言われています。当初は「熊」の字がついた宮号になる予定でしたが、鳩彦殿下が「熊」の字を避けられたために「朝香」宮に決定したというエピソードが残されています。あるいは伊勢神宮の近郊あさまにある朝熊山に因んで、「朝熊」宮となる予定であったのかもしれませんが。明治43年(1910年)5月、殿下は明治天皇の第8皇女允子内親王たかひことご結婚され、4人のお子様(紀久子女王、孚彦王、正彦王、湛子女王)に恵まれました。

大正11年(1922年)10月、鳩彦殿下はフランス

に留学されましたが、翌年義兄の北白川宮成久殿下なるひさが運転されていた自動車でパリ郊外をドライブ中不慮の事故に遭われ、長期のご療養を余儀なくされました(この事故で成久殿下は薨去)。このため日本にお残りになられていた妃殿下も急遽フランスへと向かわれ、はからずもパリでのお二人の生活が始まったのです。大正14年(1925年)7月、両殿下はパリで開催中の「現代装飾美術・産業美術国際博覧会(通称アール・デコ博)」をご見学されていますが、このことが後にアール・デコ様式の朝香宮邸(現東京都庭園美術館)が日本に誕生する契機となりました。このご滞在中に両殿下は日常会話であれば不自由のないほどにフランス語をマスターされ、殿下が狩猟をなさるまでにご回復された後は、妃殿下も水彩画を学ばれるなど充実した時間をお過ごしになりました。

お二人は博覧会をご見学された年の12月、パリの思い出を胸に当時高輪にあった宮邸にお戻りになりましたが、それから数年を経た昭和4年(1929年)頃より、現在の白金台の地への新宮邸建設計画がスタートしました。

(次号に続く/牟田)◆



オルゴール(個人蔵)
明治43年(1910年)のご婚礼に際し、海軍高等官より允子妃殿下に贈られたもの



朝香宮家ご家族
前列右より允子妃殿下、紀久子女王、湛子女王、後列右より孚彦王、鳩彦殿下、正彦王。昭和6年(1931年)、紀久子女王のご結婚前に家族全員で撮影された唯一の写真